

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム あけぼの

日付 平成19年3月31日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験18年
評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

毎日続けて行われているリハビリから利用者の活気ある一日が始まる。日曜日以外の毎日、ほぼ全員がリハビリに通って、体を動かしたり歌を歌ったりして楽しんで来る。リビングに帰ってのティータイムには、一仕事終わって充実した笑顔があふれる。その後は利用者が新聞を読んだりテレビを見たりしてゆったりと自由な時間を過ごす。職員の声かけや誘導によって、その人に適した手伝い作業・作品作りなどにも楽しく取り組んでおり、残存能力を十分に発揮している。

職員は利用者一人ひとりのしたいことや能力をよく理解して、楽しく声かけしながら、利用者の動きが主体となるよう、できないことをそっと支える支援をしている。リビングルームには職員と利用者の楽しい会話が飛び交い、利用者の気持ちを職員がしっかり受け止めている。この他、外出や行事も数多く取り入れており、利用者は、心身共に充実した生活を送ることができていると思う。レベルの低下も少ないように思えて嬉しい。

母体病院に支えられた医療とリハビリによる健康管理は、利用者の安心感や活力の基になっている。職員間の連携、家族との連携、地域との連携にも年々新しい取り組みを心掛け、法人と職員が一体となってより良いサービスに向けて改善に取り組んでいることは、とても頼もしく感じる。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

家族参加の行事に全利用者の家族が参加してくれるなど、素晴らしい成果が上がっている。これからは、外出や行事など手助けが欲しい時に、家族の協力を求めていけばどうだろう。家族と利用者の絆を深め、利用者の生活も豊かにすることが出来ると思う。運営推進委員会をきっかけに、地域向け広報紙を発行し、町会長の協力が得られるなど、良い方向付けができているのはうれしい。しかし、まだグループホームの役割を知らない地域住民に対し、ホームを開放したり、地域の人に来てもらう具体的な動きかけをして欲しい。例えば夏祭り、バザー、餅つき等。「あけぼのへ行ってみよう」と誘い合わせて来てくれる企画を工夫してみてもどうだろう。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 医療との連携による健康管理とリハビリにより、生活の基本となる心身を良い状態に保つことを第一に心掛けている。その上で、利用者の自由意志やプライバシーを尊重し、それとなく身体ケアを行いながら、利用者がしたいことが出来るように支えていこうとしている。 また、持っている能力をできるだけ引出し、作業や作品作りに取り組んでもらうことにより、心身ともに豊かな生活ができるだけ長く続けられるよう支援している。「自分らしく生き生きと暮らして欲しい」と言う管理者の言葉からもそれを感じられる。 それでも年月とともに利用者のレベル低下が予想されるが、家族との連携をしっかりとりながら、希望によっては終末期まで環境を変えないで大切にケアを続けていくことにしている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か リビングや廊下、畳の間など広い空間には長椅子やソファなど座る所が多くあり、利用者は自由に居場所を選ぶことができ、ゆったりと寛ぐことができる。個室のトイレ・洗面もプライバシー面での安心が得られる。 ホーム外は坂道があるなど恵まれてはいないが、一対一で付き添って散歩したり、狭い庭のプランターで野菜を栽培して利用者で収穫する等、環境に対して、色々な工夫をしながら生活を楽しんでいる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人できることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 医師と看護師との顔合わせに始まり、全員でリハビリに通うことが利用者の一日の活力となっている。朝のきちんとしたリズムがあつてこそ、その後の自由な時間も、ボンヤリ過ごすのではなく、色々な取り組みを楽しんですることができているように思う。 職員も利用者一人ひとりの特徴をよく知っていて、どの人に何を取り組んでもらったら良いかよく分かっていて、上手く声かけし、励ましたり誉めたりしている。利用者の自由意志を尊重し、職員は出来ないことを影から支えるようにして、身体ケアもプライバシーに配慮してそれとなくこなしている。 健康管理は病院との連携により万全であり、職員間の連携も記録類も年々整って、介護計画作成や見直しもよく検討されている。徐々に来るレベル低下は避けられないが、職員が一人ひとりにふさわしい接し方をすることで、最後まで身体的・精神的に豊かな生活ができるよう努力している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か 「利用者には穏やかに過ごして欲しい。その為にも家族との連携は不可欠です」と管理者は言う。今年度、家族参加の行事を企画し利用者のほぼ全員の家族が参加という成果を得て、家族との連携への取り組みが一步前進した。利用者の笑顔を見るため、職員は色々な取り組みをして、より良いケアを心がけている。 また法人全体でもホームを支え、サービスの向上を目指している。評価結果も真摯に受け止め、直に改善できることは実行し、難しいことは一歩ずつ取り組みの成果を積み上げている。年々改善されてきているこのホームの力強さを頼もしく思う。 利用者ができるだけ長く自立して豊かに暮らせるよう、地道に今の取り組みを続け、職員、医療、家族、地域の連携をさらに発展させていって欲しい。そして、グループホームの役割や認知症ケアについて地域の人知ってもらうことへの取り組みにも期待している。		